

## 5-5 (12)

## 増悪進展時における未熟型骨髓腫細胞の増加

河野道生<sup>1</sup>、大津山賢一郎<sup>1</sup>、馬 梓<sup>1</sup>、石川秀明<sup>1</sup>、麻奥英毅<sup>2</sup>

山口大学・院・医学研究科・生体シグナル解析医学<sup>1</sup>、広島赤十字・原爆病院<sup>2</sup>

患者骨髓腫細胞は形態学的、表面抗原解析上にも非常に不均一な細胞からなっている。細胞表面抗原解析により、MPC-1-CD49e<sup>-</sup>未熟型、MPC-1+CD49e<sup>-</sup> 中間型、MPC-1+CD49e<sup>+</sup> 成熟型骨髓腫細胞に明瞭に識別される。MPC-1-CD49e<sup>-</sup>未熟型骨髓腫細胞が増殖分画であり、中でも CD45+( MPC-1-CD49e<sup>-</sup>)未熟型骨髓腫細胞は IL-6 に直接的に反応して増殖する細胞と考えられている。これらの細胞亜群が骨髓腫の病態に推移にどう関係しているかを、実際の骨髓腫 (MGUS を含む) 約 100 例において検討した。 1) 増悪進展時 (31 例) では、MPC-1<sup>-</sup> 未熟型骨髓腫細胞が増加しており、MPC-1-CD45<sup>+</sup>細胞の比率も増加していた。 2) 安定時(15 例) では、MPC-1<sup>-</sup> 未熟型骨髓腫細胞の%は低かった。 3) MGUS 症例で安定のものでは、MPC-1<sup>-</sup> 未熟型骨髓腫細胞の%は低かった。 4) MGUS から骨髓腫への進展症例では、MPC-1<sup>-</sup> 未熟型骨髓腫細胞の%が上昇していた。 各症例につき、具体的なデータを提示しながら報告する。